

己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1491500060	事業の開始年月日	平成25年10月1日	
		指定年月日	平成25年10月1日	
法人名	ミモザ株式会社			
事業所名	ミモザ湯河原温々			
所在地	(〒259 -0301) 神奈川県足柄下郡湯河原町中央二丁目 8 番地 3			
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18 名	
		ユニット数	2 ユニット	
自己評価作成日	平成30年9月13日	評価結果 市町村受理日	平成30年11月15日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ミモザの理念「介護する家庭」の提供を目指し、職員手作りの温かい出来立ての食事やケアの提供を行っています。外出や、季節の草花等季節感を大事にし、楽しみのある生活をおくっていただけるように努めています。医療連携体制も整え心身の健康に留意し安心して生活ができるように支援しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川県福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成30年9月21日	評価機関 評価決定日	平成30年10月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の優れている点】 ◇法人の理念に沿った事業所独自の理念の実践 運営法人の理念に沿って、職員が参加し事業所独自の理念「人に対し、思いやりの心を持って日々の生活を支える」「皆様のやりたい気持ちを大切に」「地域社会の中で人と人とのふれいを大切に」を作成した。 職員は、常に理念を確認し合い理念に沿った介護の実践に努めている。 ◇医療連携と看取りの実践による利用者支援体制の確立 医療面では協力医療機関の医師と訪問看護師が連携し、利用者は必用に応じて医療を受診し健康相談ができ、重度化した場合は、医師と看護師、家族や職員が連携して、看取りに当たる利用者への支援体制が確立している。 ◇職員の意欲向上につながる職場30分研修の継続 「職場30分研修」を継続する年間計画を作成し、認知症ケアを始めターミナルケア、災害時への対応、プライバシー保護などについて毎月研修を実施し、人材育成と質の向上を図っている。</p> <p>【事業所が工夫している点】 ◇家族へ毎月、利用者の「近況報告書」を送付 事業所では、毎月家族に利用者の「近況報告書」を送付して、利用者の日常生活の様子や健康状態を知らせている。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ミモザ湯河原温々
ユニット名	さつきの家

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
		○	4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミモザの理念「介護サービスの提供を通じて社会に貢献す」という意識を持ち実践につなげている。	・理念を管理者と職員の話し合いにより作成し、1階と2階の各事務室に掲示している。 ・職員は、職場30分研修やミーティング時に理念を確認し、利用者への思いやりを持ち、日々のケアに当たっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会への参加や、夏祭り、地域の催しに参加を行っている。	・自治会に加入し、地域の夏祭りの際、利用者は玄関先で花車を見物して楽しんでいる。 ・地元の神社へ初詣に出掛け、また、オカリナやハーモニカ演奏、傾聴のボランティアが来訪し、利用者とは交流している。	・地元の保育園・幼稚園との交流、中学生・高校生の社会学習の受け入れなどを促進することが期待されます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	オムツ講習会や認知症講習会を開催している。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、民生委員、地域包括、家族代表者へ施設の状況説明を行っている。また、参加者より地域の情報や地域ならではの提案などを受けている。	・運営推進会議は、地域代表、民生委員、地域包括支援センターの職員と利用者の家族をメンバーとして、2か月毎に開催している。 ・会議では、運営状況や活動内容を説明し、出席者から地域情報などを得てサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町役場職員が運営推進会議に参加したり、不明点や入居者についての相談など都度介護課に行っている。	・管理者は、役場の介護課と運営面や業務上について相談をしている。 ・法人の理念「地域貢献を築く」に沿い、生活保護の方を受け入れ、町との関わりに取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どのような行為が身体拘束になるのか、身体拘束につながっていくのを知り・考える研修を行って職員の意識を高めるように努めている。	・職員は身体拘束に関する30分研修に参加し、禁止行為について正しい理解に努めている。 ・玄関は安全と防犯上から、家族の了解を得て施錠している。居室を含めフロア内を開放している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を行い職員の意識向上に努め、虐待・拘束の厳禁を徹底している。運営規定・重要事項説明書にも明記している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職場研修を行い、制度を理解し学ぶ場を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営規定、重要事項説明書、契約書の読み合わせを十分に行い、疑問点については都度説明をしている。説明について、理解・納得していただいで契約している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への家族参加や、日常的に家族ともコミュニケーションを取り要望や気付いた事を聞き、運営に反映している。	・運営推進会議や家族の来訪時に、利用者の日頃の様子を説明し、要望を聞いて運営に反映している。 ・家族の希望があり、利用者の米寿祝いを事業所として企画し、町長が来訪して祝った実績もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に職員の意見を聞くようにしている。月に1度のミーティングでも意見交換の場として活用している。	・管理者は、毎月の全体会議や朝夕の申し送り時に、職員から要望・意見を聞いている。 ・職員からシフトに関する要望には、希望に沿うよう努めている。 ・運営法人の担当部長が月1回巡回し、職員の要望を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの経験や技術、勤務態度など定期的に評価し給与に反映させている。また、一人一人に役割を持ってもらいやりがいや達成感を感じてもらえる環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「人を育てる」という社是に則り、各施設で毎月研修を行ったり、内外の研修を活用している。社内の研修センターでは各サービスの部門別研修を行ったり介護技術向上に向けた研修も行って職員のスキルアップや人材育成に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	定期的に他事業所へ訪問し情報交換をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、不安や困っている事を聞き、相談を行うことで不安の軽減を目指している。また、なんでも相談できる環境作りに努め、信頼関係を築く努力をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や困っている事、どんな支援を望んでいるのかを良く聞き、ニーズを理解することで信頼関係を築き必要な情報提供をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談していただいた時に、本人・家族にとって入居が適切なのかをよく検討し見極め助言している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に日常生活の動作を行い、感謝し、一緒に喜ぶことで暮らしをともにしている。また人生の先輩という尊敬の気持ちを持ちご利用者からいろいろなお話を学ばせていただいている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	些細なことも情報共有に努め、困ったことがあるときはお互いに相談し協力できる環境、関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	親族や友人、今まで本人を支えてきた地域の方など自由に交流できるよう面会を歓迎している。	・利用者は家族と一緒に美容院や馴染みの店で外食し、墓参りに出かけ、正月を自宅で過ごす方もいる。 ・天気の良い日には、職員と利用者の自宅付近へドライブしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立することのないよう、席の場所や会話にスタッフも参加をしてコミュニケーションが取りやすいように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後にもご利用者家族がいつでも相談できるようにしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの希望や思いを毎日の生活の中からも聞き取り、ケアに活かすよう把握に努めている。聞き取り困難な場合は、ご家族の意向やご本人の日々の過ごし方などから汲み取り情報共有に努めている。	・利用者の表情やしぐさなどから意向や希望を汲み取るように努め、家族の来訪時には、本人の生活歴や希望を聞いてケアの参考にしている。 ・入浴時の寛いだ雰囲気や夜の静かな時間帯のときに、利用者の思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用の相談の段階から本人または家族より生活歴、趣味嗜好や性格など聞き把握に努めている。入居後も日々の過ごし方など本人のペースを知り、職員間での情報の共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定や体調面の把握に努め、日常動作を行いながら本人の状態観察を行っている。またその情報の共有に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向、ニーズの聞き取りを行い、カンファレンスを行うことで情報の共有をしケアにアイデアを反映させている。	・事前に本人と家族、主治医、訪問看護師の意見を把握し、職員が参加して毎月フロアごとにカンファレンスを行い介護計画を作成している。 ・短期目標を6か月、長期目標を1年とし、モニタリングして介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフの気づきや本人の様子を記録し、情報共有に活用している。バイタル表等で体調や状態を確認し介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望により訪問診療や歯科往診を受け入れたりと多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の参加により、地域の持用紙への参加や地域の住民との交流を図り、暮らしの中に楽しみを持つことができるようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携体制をとり、月2回の往診や24時間の医師や看護師との連絡が可能になっている。本人や家族の意向で、以前からのかかりつけ医の利用も継続できる。	・眼科、整形外科のかかりつけ医を継続している利用者がいる。 ・協力医療機関の内科医と歯科医が月2回往診している。 ・内科医、歯科医の往診記録があり、職員間で利用者の医療情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制の中で週に1度の訪問看護にて健康相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療関係との連携を密にして情報交換に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期に関しては契約時にも説明を行っている。本人や家族がどのようなケアや最期を望んでいるのかをよく話し合い、意向に添った支援を行っている。支援を行うスタッフへの研修も行い、理解を深めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時に、重度化への対応と看取り指針を説明して家族の同意を得ている。利用者が重度化した場合は、家族の意向を確認し、医療関係者と連携し方針を共有して取り組んでいる。 ・事業所では、看取りの経験があり、職員は、定期的にターミナルケアの研修を受けている。 	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応の研修を行ったり、マニュアルを確認し、実践力を付けるよう取り組んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。消防署からも訓練に参加してもらい注意点など指摘してもらい次回訓練時に活かしている。自治会参加により災害時の協力体制を築いている。	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会役員が参加し、夜間の想定を含めて年2回避難訓練を行い、消防署の職員から指導も受けている。 ・管理者が、地域の総合防災訓練に参加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・非常災害用の食料、飲料水、備品類の一覧表を作成し、備蓄場所を定めて管理することが期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇や、プライバシーの確保についての研修を行っている。本人の自尊心を大切に言葉かけを工夫している。	・職員は30分研修や接遇マナー、プライバシー保護研修を通して、言葉使いや態度を学んでいる。 ・介護中に不適切な言葉かけや対応に気付いたときは、管理者、職員同士がその場で注意するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活のなかで、本人の思いを表せるように好みや希望を聞き取り自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを尊重し、自分のペースで過ごせるよう見守っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の衣類の選択や外出着への着替えなど身だしなみに気遣っている。また、希望のある場合は2か月に1度美容師により散髪を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳のや後片付けを一緒に行っている。食事をしながら味付けについて会話をしたり好きな食べ物の聞き取りを行っている。	・利用者の好みを把握し、誕生会やお楽しみの食事会に反映している。 ・利用者の状態に応じ、きざみ食、ミキサー食を提供している。 ・利用者はできる範囲で、お盆やテーブル拭きを手伝っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに注意し、一日の摂取量を把握している。一人ひとりの習慣や状態など本人、家族に聞きながら様子を観察し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりにあった口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の記録をつけ、一人ひとりの排泄リズムを把握している。声掛けを行いトイレでの排泄を促している。	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄チェック表でパターンを把握し、時間に加え利用者の表情、しぐさなどからトイレに誘導し、失禁をなくして、自立に向けた支援に取り組んでいる。夜間は時間を決めてトイレに誘導している。 ・病院から退院した利用者で、自立に向けて改善した例がある。 	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便リズムを把握し、服薬調整を行うとともに食事や水分摂取にも気遣っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の状態を確認しながらタイミングを合わせて入浴を促している。入浴時間は自分のペースですごくしてもらっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴は週2回午前中を基本としている。利用者の身体状況に応じて見守り、1人介助、シャワー浴、チェアー浴で対応している。 ・利用者は入浴中、職員と昔話しなどの会話を楽しみながら寛いでいる。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	身体状況に合わせて、昼寝やソファでの休息を行っている。一人ひとりの習慣に合わせ就寝を手伝い気持ちよく入眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を管理し、職員は把握し状態の観察をしている。特に薬の変更時には経過の観察を注意して行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴や、好きなことをもとに役割を持った生活を目指し支援している。レク活動を取り入れながらメリハリのある支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日は、外気浴や散歩を行っている。また月に1～2回の外出レクを行い季節を感じてもらっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所周辺を散歩し、玄関前で外気浴をしている。 ・車椅子の利用者も参加して、季節の梅・桜・紫陽花・紅葉等を観賞にも出かけている。 ・利用者は、職員の支援を得て近隣へのドライブを楽しんでいる。 	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の力に応じて、自己管理して頂くこともある。自己管理が難しい方に関しても職員との会話のある買い物で、本人の希望する物品の購入を支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある場合は、家族への電話や手紙の代筆等行う。家族にも様子を伝え大切な方との交流を支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングやトイレ、廊下など清潔感を保っている。造花や観葉植物を飾ったり、季節に応じて生花を飾ることもある。	<ul style="list-style-type: none"> ・リビングは広く和室があり、清掃が行き届いている。 ・職員と共同で毎月季節に合った作品を作り、室内に飾って季節感を取り入れている。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置により、それぞれ好きな場所で自分のペースで過ごしている。ソファに座り話をしたり思い思いに過ごせるよう支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの身体状況や、好みに応じてレイアウトを変えている。家族や、本人の要望があれば使い慣れた家具を使用したり、好きな物を飾ったり心地よい空間作りを支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所がエアコン、ベッド、クローゼットを設置し、利用者はテレビ、仏壇、家族の写真などを持ち込んでいる。 ・車椅子の方には、室内の配置に配慮し広めの空間を作り、居心地よく過ごせるよう工夫している。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーとなっており、手すりがついていたり段差が少なくなっている。一人ひとりのできる事やわかることをよく見極めできる限り自立した生活ができるよう、物品の配置にも配慮している。		

事業所名	ミモザ湯河原温々
ユニット名	うめの家

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミモザの理念「介護サービスの提供を通じて社会に貢献す」という意識を持ち実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会への参加や、夏祭り、地域の催しに参加を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	オムツ講習会や認知症講習会を開催している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、民生委員、地域包括、家族代表者へ施設の状況説明を行っている。また、参加者より地域の情報や地域ならではの提案などを受けている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町役場職員が運営推進会議に参加したり、不明点や入居者についての相談など都度介護課に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どのような行為が身体拘束になるのか、身体拘束につながっていくのかを知り・考える研修を行って職員の意識を高めるように努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を行い職員の意識向上に努め、虐待・拘束の厳禁を徹底している。運営規定・重要事項説明書にも明記している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職場研修を行い、制度を理解し学ぶ場を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営規定、重要事項説明書、契約書の読み合わせを十分に行い、疑問点については都度説明をしている。説明について、理解・納得していただいで契約している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への家族参加や、日常的に家族ともコミュニケーションを取り要望や気付いた事を聞き、運営に反映している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に職員の意見をきくようにしている。月に1度のミーティングでも意見交換の場として活用している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの経験や技術、勤務態度など定期的に評価し給与に反映させている。また、一人一人に役割を持ってもらいやりがいや達成感を感じてもらえる環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「人を育てる」という社是に則り、各施設で毎月研修を行ったり、内外の研修を活用している。社内の研修センターでは各サービスの部門別研修を行ったり介護技術向上に向けた研修も行って職員のスキルアップや人材育成に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	定期的に他事業所へ訪問し情報交換をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、不安や困っている事を聞き、相談を行うことで不安の軽減を目指している。また、なんでも相談できる環境作りに努め、信頼関係を築く努力をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や困っている事、どんな支援を望んでいるのかを良く聞き、ニーズを理解することで信頼関係を築き必要な情報提供をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談していただいた時に、本人・家族にとって入居が適切なのかをよく検討し見極め助言している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に日常生活の動作を行い、感謝し、一緒に喜ぶことで暮らしをともにしている。また人生の先輩という尊敬の気持ちを持ちご利用者からいろいろなお話を学ばせていただいている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	些細なことも情報共有に努め、困ったことがあるときはお互いに相談し協力できる環境、関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	親族や友人、今まで本人を支えてきた地域の方など自由に交流できるよう面会を歓迎している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立することのないよう、席の場所や会話にスタッフも参加をしてコミュニケーションが取りやすいように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後にもご利用者家族がいつでも相談できるようにしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの希望や思いを毎日の生活の中からも聞き取り、ケアに活かせるよう把握に努めている。聞き取り困難な場合は、ご家族の意向やご本人の日々の過ごし方などから汲み取り情報共有に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用の相談の段階から本人または家族より生活歴、趣味嗜好や性格など聞き把握に努めている。入居後にも日々の過ごし方など本人のペースを知り、職員間での情報の共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定や体調面の把握に努め、日常動作を行いながら本人の状態観察を行っている。またその情報の共有に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の行動や言葉、思いを大切に職員間でカンファレンスを行うなど情報共有しアイデアを介護計画に反映している。また、家族とも日常的にコミュニケーションをとり要望や思いを聞き関係作りに努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフの気づきや本人の様子を記録し、情報共有に活用している。バイタル表等で体調や状態を確認し介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望により訪問診療や歯科往診を受け入れたり多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の参加により、地域の持用紙への参加や地域の住民との交流を図り、暮らしの中に楽しみを持つことができるようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携体制をとり、月2回のの往診や24時間の医師や看護師との連絡が可能になっている。本人や家族の意向で、以前からのかかりつけ医の利用も継続できる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制の中で週に1度の訪問看護にて健康相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療関係との連携を密にして情報交換に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期に関しては契約時にも説明を行っている。本人や家族がどのようなケアや最期を望んでいるのかをよく話し合い、意向に添った支援を行っている。支援を行うスタッフへの研修も行い、理解を深めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応の研修を行ったり、マニュアルを確認し、実践力を付けるよう取り組んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。消防署からも訓練に参加してもらい注意点など指摘してもらい次回訓練時に活かしている。自治会参加により災害時の協力体制を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇や、プライバシーの確保についての研修を行っている。本人の自尊心を損なわないように、声掛けを工夫し、自分で行えるよう本人のペースに合わせ見守りや介助を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活のなかで、好みを聞いたり、本人の思いを表せるように希望を聞き取り自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを尊重し、自分のペースで過ごせるよう見守っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の衣類の選択や外出着への着替えなど身だしなみに気遣っている。また、希望のある場合は2か月に1度美容師により散髪を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳のや後片付けを一緒に行っている。食事をしながら味付けについて会話をしたり好きな食べ物の聞き取りを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに注意し、一日の摂取量を把握している。一人ひとりの習慣や状態など本人、家族に聞きながら様子を観察し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりにあった口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の記録をつけ、一人ひとりの排泄リズムを把握している。声掛けを行いトイレでの排泄を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便リズムを把握し、服薬調整を行うとともに食事や水分摂取にも気遣っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の状態を確認しながらタイミングに合わせて入浴を促している。入浴時間は自分のペースですごしてもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	身体状況に合わせて、昼寝やソファでの休息を行っている。一人ひとりの習慣に合わせ就寝を手伝い気持ちよく入眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を管理し、職員は把握し状態の観察をしている。特に薬の変更時には経過の観察を注意して行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴や、好きなことをもとに役割を持った生活を目指し支援している。レク活動を取り入れながらメリハリのある支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日は、外気浴や散歩を行っている。また月に1～2回の外出レクを行い季節を感じてもらっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の力に応じて、自己管理して頂くこともある。自己管理が難しい方に関しても職員との会話のある買い物で、本人の希望する物品の購入を支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある場合は、家族への電話や手紙の代筆等行う。家族にも様子を伝え大切な方との交流を支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングやトイレ、廊下など清潔感を保っている。造花や観葉植物を飾ったり、季節に応じて生花を飾ることもある。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置により、それぞれ好きな場所で自分のペースで過ごしている。ソファに座り話をしたり思い思いに過ごせるよう支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの身体状況や、好みに応じてレイアウトを変えている。家族や、本人の要望があれば使い慣れた家具を使用したり、好きな物を飾ったり心地よい空間作りを支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーとなっており、手すりがついていたり段差が少なくなっている。一人ひとりのできる事やわかることをよく見極めできる限り自立した生活ができるよう、物品の配置にも配慮している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 ミモザ湯河原温々

作成日 平成30年10月25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	非常災害時の食料飲料の確保。	最低3日分を確保。	保管場所を確保し、リストを作成する。	6ヶ月
2	2	自治会との交流はあるが、子どもとの交流がない。	小学校、保育園との交流をしていきたい。	自治会等に働きかけ、小学校、保育園との交流を目指す。	1ヶ年
3					
4					
5					